

---

# 安達文夫先生を送る

鈴木卓治

安達文夫先生が照井武彦教授（現名誉教授）の後任として大学共同利用機関国立歴史民俗博物館（以下歴博と略記）情報資料研究部情報システム研究部門の教授に着任されたのは1999（平成11）年の4月のことでした。この部門は歴博の開館以来、照井教授、八重樫純樹助教授（現静岡大学名誉教授）の2名体制であり、私の着任後、八重樫先生が静岡大学へお移りになり、照井先生もご定年ということで、危うく助手一人となってしまうところでしたが、幸いにして安達先生をお迎えすることができました。

安達先生は、1951（昭和26）年2月に新潟県でお生まれになり、1978（昭和53）年3月に東北大学大学院工学研究科電子工学専攻博士課程を修了され、工学博士の学位を取得されました。同年4月には日本電信電話公社横須賀電気通信研究所に研究員として入所され、日本電信電話株式会社（NTT）への民営化を経て、一貫して研究者として活躍され、ファクシミリを中心とした画像通信システムの研究開発ならびに画像認識／統計的予測手法を用いた応用サービスの研究に従事しておられました。

着任してしばらくは、民間企業とあまりにも違う歴博のシステムにとまどっておられるようでしたが、程なく館是であるところの「先端情報技術の日本歴史学の研究・展示・教育への応用」へ取り組まれることとなりました。

歴博における安達先生の研究業績は、大きく次の3つに要約することができます：

- (1) 展示・資料公開システムの開発、
- (2) 展示や資料公開における利用者特性の分析、
- (3) デジタル資料を含めた資料探索のための方法記述論の研究、

以下、業績の内容を順にご紹介します。

(1) の展示・資料公開システムについては、博物館資料の超高解像度画像閲覧を可能にする超大画像閲覧システムを開発し、超精細デジタル資料の制作を積極的に推進されたことが第一の業績として挙げられます。「超大画像自在閲覧システム」は、一辺が数万画素以上の超大画像を「どこでも」「任意の大きさで」閲覧する機能をもつソフトウェアです。安達先生は、歴博に着任して間もない2000（平成12）年に、超大画像自在閲覧システム「超拡大！江戸図屏風」の開発を指揮し、その夏に開催された「21世紀夢の技術展（日本経済新聞社主催）」にこれを出品されました。歴博が所蔵する江戸時代初期の江戸とその周辺の景観を描いたとされる江戸図屏風（六曲一双）について、大型タッチパネルディスプレイとの組み合わせによって、画面を直接触って画像の隅々まで簡単な操作で閲覧できるシステムは、内外の好評を博し、以来歴博では、安達先生のご指導のもとに、博物館資料の超精細画像を撮影してデジタル化し、超大画像自在閲覧システムを用いて閲覧する「超

精細デジタル資料」を積極的に制作していくこととなりました。これまでのべ 63 種類の超精細デジタル資料が、2014（平成 26）年度末までに開催された企画展示・特別展示・館外共催展示 74 件のほぼ半数（のべ 39 件）で利用されました。

超大画像自在閲覧システムは、開発から 15 年経過した現在においても歴博の展示における中核のひとつとして機能しており、さまざまな内容のコンテンツに対応するためのシステムの改善と機能拡張が継続的に行なわれています。安達先生が手がけられた主な機能拡張として、利用記録の保存、画像回転機能の追加ならびに実物大表示ボタンの導入（古地図資料の閲覧のために追加）、中間マップの表示機能（絵巻等の横長の資料の閲覧のために追加）、2 画面表示として画面の縦分割と横分割を選択できる機能ならびに 2 画面表示における表示の連動・非連動ならびに連動方向（同一方向、反対方向）の切り替え機能の追加（館蔵正倉院文書複製資料の研究利用閲覧のために追加）、必ずしも地理的に正確に描かれていない古地図資料の相互比較等のための対応点テーブルを用いた連動機能の実現（洛中洛外図屏風歴博甲本ならびに乙本を比較して閲覧するために追加）、などが挙げられます。

安達先生はこのほか、2000（平成 12）年に開催されたデジタルミュージアム共同実験「縄文の記憶」において、共同開催館である東京大学総合研究博物館と高速デジタル回線で結んで、互いの展示空間を仮想的に画像で結びつける試みや、2007 年に開催された企画展示「弥生はいつから！？—年代研究の最前線」における、タッチパネル上を指でなぞって与えた形に合う土器を検索する土器検索システムなど、かずかずのデジタル画像技術の展示応用を試みられました。

(2) の展示や資料公開における利用者特性の分析については、超大画像自在閲覧システムに追加した利用記録保存の機能を用いて、来館者が資料をどのように閲覧したかを統計分析し、利用者インターフェイスの改良や、画面に同時に表示する資料の数やその配置について考慮すべき事項の発見を試みられました。研究成果は継続的に国立歴史民俗博物館研究報告に論文として報告され、研究の成果を展示に反映させることと、展示の状況を新たな問題設定とその解決のための研究活動に結びつけることを循環的に展開されました。これは歴博が推進する研究スタイルである博物館研究統合の典型的な具体的実践例であるといえます。

(3) のデジタル資料を含めた資料探索のための方法記述論の研究については、研究資源共有化システム（後述）の実現に必要な、博物館情報を Dublin Core (DC) という情報記述の国際規格の枠内に納める（マッピングする）ための、各情報と DC の各項目との対応関係を検討されました。この基礎的な研究が、2008（平成 20）年の第 I 期システムにおける共通メタデータ、2012（平成 24）年の第 II 期システムにおける博物館コアメタデータならびに基本共通メタデータ（検索用、表示用）の提案に結実することとなりました。

また、安達先生が主催した歴博共同研究「デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究」では、デジタル資料は必ず何らかを写し取っている、という「転写資料」の概念に基づくデジタルデータの管理と利用のための情報記述モデルを提案され、研究の成果として「転写資料記述のための概念モデル—アナログ資料とデジタル資料の連続した管理と利用のために—」（第 1. 2 版、2011（平成 23）年 7 月 27 日）を作成しインターネット上に公開されました。

このほかにご紹介すべき事項として、2003（平成 15）年に第 6 回歴博国際シンポジウム「情報

---

技術による歴史・文化研究の新展開」を開催したことが挙げられます。国内外の人文系研究における情報技術の応用事例を紹介し、問題点を整理することで、勃興期にあったわが国の人文情報学研究の進展に寄与されました。

安達先生の特筆すべき業績として、人間文化研究機構における研究資源共有化事業に関する多大のご貢献をはずすことはできません。2004（平成16）年に発足した人間文化研究機構において、研究資源共有化事業は石井米雄初代機構長によって機構の最重要事業のひとつと位置づけられ、機構に所属するすべての研究機関が保有する研究データベースを統合的に検索することのできる研究資源共有化システムの構築が急がれましたが、各機関ごとの考え方の違いもあり、設計はまとまらず開発は難航を極めました。2008（平成20）年に公開を開始することができたのは、安達先生が取りまとめの中心として関係者間の調整に尽力されたことが非常に大きかったと感じています。また共有化システム実現の鍵となる各データベースの項目のDCマッピングについて、膨大な手間を要する作業をきちんとまとめあげられたことも、安達先生のご努力の賜物であり、研究資源共有化システムの成立は安達先生の存在無しには実現しえなかった、と言い切ってよいと思います。

2002（平成14）年4月より総合研究大学院大学文化科学研究科教授を併任され、歴史情報科学A（歴史資料の資料情報記述法とデジタル資料論）を担当されました。また副指導教員として松岡葉月氏（2008（平成20）年修了、博士（文学））の学位論文「歴史系博物館における主体的学びの研究」の執筆をご指導されました。

このように安達先生は、17年間のご活躍を通じて、歴博の研究・展示・教育に資する情報システムの活用に大きく貢献され、加えて人間文化研究機構における研究資源共有化事業の中核を勤めるなど、わが国の人文情報学研究の推進に貢献され、この分野における本館の存在意義を内外に広く示し発展に寄与されました。

2016（平成28）年3月末日をもってご定年を迎えられるいまこのときに、安達先生へのこれまでの感謝と惜別を込めて、謹んで小文を捧げます。長い間ありがとうございました。これからもどうぞお体に気をつけてご活躍ください。

---

## 安達文夫年譜

1973年（昭和48年）

3月 東北大学工学部電子工学科卒業

1978年（昭和53年）

3月 東北大学大学院工学研究科電子工学専攻博士後期課程終了（工学博士）

4月 日本電信電話公社横須賀電気通信研究所

1982年（昭和57年）

2月 日本電信電話公社横須賀電気通信研究所研究専門調査員

1985年（昭和60年）

9月 日本電信電話株式会社情報通信処理研究所主任研究員

1987年（昭和62年）

4月 日本電信電話株式会社情報通信処理研究所主幹研究員

1991年（平成3年）

7月 日本電信電話株式会社ヒューマンインターフェース研究所主幹研究員

1993年（平成5年）

2月 日本電信電話株式会社画像通信事業本部主幹技師

1997年（平成9年）

4月 日本電信電話株式会社ヒューマンインターフェース研究所主幹研究員

1999年（平成11年）

4月 国立歴史民俗博物館情報資料研究部教授

2002年（平成14年）

4月 総合研究大学院大学文化科学研究科教授（併任）

2004年（平成16年）

4月 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授

4月 総合研究大学院大学担当教授（文化科学研究科担当）（任命）

2009年（平成21年）

4月 国立歴史民俗博物館広報連携センター長（2011年3月31日まで）

2016年（平成28年）

3月 国立歴史民俗博物館および総合研究大学院大学を定年により退職

### 展示プロジェクト委員歴 展示プロジェクト名

1999年～2000年（平成11年～12年）

企画展示「縄文の記憶—デジタルミュージアム共同実験—」

---

---

2000 年～2001 年（平成 12 年～13 年）

企画展示「異界万華鏡—あの世・妖怪・占い—」

2002 年～2003 年（平成 14 年～15 年）

企画展示「ドキュメント災害史 1703～2003—地震・噴火・津波, そして復興—」

2003 年～2003 年（平成 15 年～15 年）

特別企画「歴史を探るサイエンス」

2003 年～2006 年（平成 15 年～18 年）

企画展示「日本の神々と祭り—神社とは何か?—」

2004 年～2007 年（平成 16 年～19 年）

企画展示「西のみやこ東のみやこ—描かれた中・近世都市—」

2005 年～2007 年（平成 17 年～19 年）

企画展示「弥生はいつから!?—年代研究の最前線—」

2005 年～2010 年（平成 17 年～22 年）

総合展示リニューアル第 6 室

2006 年～2009 年（平成 18 年～21 年）

企画展示「錦絵はいかにつくられたか」

2008 年～2009 年（平成 20 年～21 年）

機構連携展示「百鬼夜行の世界」

2009 年～2010 年（平成 21 年～22 年）

企画展示「武士とはなにか」

2011 年～2011 年（平成 23 年～23 年）

企画展示「風景の記録—写真資料を考える—」

2011 年～2012 年（平成 23 年～24 年）

人間文化研究機構連携展示「都市を描く—京都と江戸—」第 I 部「洛中洛外図屏風と風俗画」

2012 年～2014 年（平成 24 年～26 年）

国際企画展示「文字がつなぐ—古代の日本列島と朝鮮半島—」

2014 年～2016 年（平成 26 年～28 年）

企画展示「歿後 150 年シーボルトの見せたかった日本（仮称）」

2015 年～2016 年（平成 27 年～28 年）

企画展示「デジタルで親しむ歴史資料」（仮称）

---

## 安達文夫研究業績目録

### I 論文

1. 『歴史・民俗資料を遺すために』, 映像情報メディア学会誌, vol.55, No.1, pp.47-49 (Jan. 2001).
2. 『画像情報が博物館で利用されるために』, 画像電子学会誌, vol. 31, No. 5, pp.712-715 (Sep. 2002).
3. 『博物館における資料のデジタル化とその活用』, (共著/鈴木卓治) 情報処理, vol.43, No.10, pp.1058-1063 (Oct. 2002).
4. "Design and Application of a Super-High-Definition Free Viewing System for Japanese Historical Materials", (共著/Takuzi Suzuki, Kimiyoshi Miyata) Proceedings of International Conference on Information Technology and Applications 2002, 218-10 (Nov. 2002).
5. 『歴史研究に関する情報提供方法の検討』, (共著/鈴木卓治, 宮田公佳) 国立歴史民俗博物館研究報告, vol.108, pp.301-320 (Oct. 2003).
6. 『展示改善にむけた観客調査の設計と実施: 見学順路と滞在時間から見た観覧行動の解析』, (共著/宮田公佳, 竹内有理) 国立歴史民俗博物館研究報告, vol.108, pp.321-352 (Oct. 2003).
7. 『画像技術と歴史民俗学研究』, (共著/新谷幹夫) 国立歴史民俗博物館研究報告, vol.117, pp.7-22 (Feb. 2004).
8. 『博物館とデジタルアーカイブ』, 画像電子学会誌, vol.33, No.5, pp.683-690 (Sep. 2004).
9. 『文化財と画像処理技術』, 画像電子学会誌, vol.33, No.6, pp.910-911 (Nov. 2004).
10. "A Study on a Viewing System for Museum Collections using High-Definition Images", (共著/Takuzi Suzuki, Kimiyoshi Miyata) Archiving 2005, Society for Imaging Science and Technology, Proceedings, pp.129-134 (Apr. 2005).
11. 『情報資源共有化のための博物館資料データベースのマッピングとその評価』, (共著/鈴木卓治, 小島道裕, 高橋一樹) 国立歴史民俗博物館研究報告, vol.125, pp.185-214 (Mar. 2006).
12. 『展示の理解の評価に関する検討』, (共著/竹内有理, 小島道裕, 久留島浩) 国立歴史民俗博物館研究報告, vol.130, pp.1-20 (Mar. 2006).
13. 『ネットワークで公開する電子展示の利用特性と評価に関する検討』, (共著/小島道裕, 高橋一樹) 国立歴史民俗博物館研究報告, vol.139, pp.1-16 (Mar. 2008).
14. 『歴史研究情報の統合検索と歴史知識』, 人工知能学会誌, vol.25, No.1, pp.17-23 (Jan. 2010).
15. 『デジタル地名辞書の発展に向けて—情報学の立場から—』, HGIS 研究協議会編『歴史 GIS の地平 景観・環境・地域構造の復原に向けて』, 勉誠出版(株), pp.91-92 (Mar. 2012).
16. 『博物館におけるデジタル資料情報の記述法—転写資料記述のための概念モデル—』, 国立歴史民俗博物館研究報告, vol.176, pp.187-218 (Dec. 2012).
17. 『転写資料記述法の歴史民俗研究への適用から見た評価』, (共著/仁藤敦史, 高橋一樹, 大久保純一, 村木二郎, 内田順子) 国立歴史民俗博物館研究報告, vol.176, pp.267-295 (Dec. 2012).
18. 『超高精細画像自在閲覧方式の利用記録による評価』, (共著/鈴木卓治, 徳永幸生) 国立歴史民俗博物館研究報告, vol.178, pp.237-259 (Mar. 2013).
19. 『合戦図自在閲覧システム—統合モードの適用とその評価—』, (共著/鈴木卓治, 徳永幸生) 国立歴史民俗博物館研究報告, vol.182, pp.207-232 (Jan. 2014).
20. 『超高精細デジタル資料『洛中洛外図屏風』の閲覧特性—利用者の閲覧行動からの分析—』, 国立歴史民俗博物館研究報告, vol.180, pp.173-208 (Feb. 2014).
21. 『超高精細画像自在閲覧方式を適用した正倉院文書の調査研究支援閲覧システム』, (共著/鈴木卓治, 仁藤敦史) 国立歴史民俗博物館研究報告, vol.192, pp.207-220 (Dec. 2014).
22. 『時間と場所の情報を有する大量の写真資料の提示法』, (共著/青山宏夫, 田中紀之, 徳永幸生) 国立

---

歴史民俗博物館研究報告, vol.189, pp.41-77 (Jan. 2015).

23. 『博物館資料情報の検索のための発見的検索手法』, (共著/山田篤, 小町祐史) 国立歴史民俗博物館研究報告, vol.189, pp.15-40 (Jan. 2015).
24. 『統合検索のための共通メタデータと歴博データベースのデータ項目のマッピング』, 国立歴史民俗博物館研究報告, vol.201, pp.1-24 (Mar. 2016).

## II 学会発表等

1. 『博物館におけるデジタルデータの活用と保存に関する一考察』, (共著/鈴木卓治, 小林光夫) 情報処理学会シンポジウム論文集, vol.2000, No.17, pp.25-32 (Dec. 2000).
2. 『歴史研究・展示用画像表示システムの機能に関する検討』, (共著/鈴木卓治) 情報処理学会シンポジウム論文集, vol.2001, No.18, pp.229-234 (Dec. 2001).
3. “Super High Definition Digital Collections for History Research and Exhibition”, (共著/Takuzi Suzuki, et al) Proceedings of the Tokyo Symposium for Digital Silk Roads, pp.223-227 (Dec. 2001).
4. 『博物館におけるコンピュータ利用と古地図への応用』, (共著/鈴木卓治, 青山宏夫) 日本地理学会発表論文集, No.61, S207 (Mar. 2002).
5. 『歴博探検「デジタルれきはく」』, 博物館研究, vol.37, No.5, pp.21-22 (May. 2002).
6. 『画像情報が博物館で利用されるために』, 画像電子学会第30回年次大会予稿集, pp.17-23 (Jun. 2002).
7. 『超2次元数による土器形状の記述と検索』, (共著/山口宗彦, 徳永幸生) 画像電子学会第30回年次大会予稿集, pp.17-23 (Jun. 2002).
8. 『博物館情報の知的横断検索のためのフレームワーク』, (共著/山田篤, 他) 画像電子学会第30回年次大会予稿集, pp.75-76 (Jun. 2002).
9. 『博物館情報の知的横断検索の試み』, (共著/今門政紀, 他) 画像電子学会第30回年次大会予稿集, pp.77-78 (Jun. 2002).
10. 『絵画資料自在閲覧システムの古文書資料への適用』, (共著/鈴木卓治, 仁藤敦史) 情報処理学会シンポジウム論文集, vol.2002, No.13, pp.233-236 (Sep. 2002).
11. “An Application of Super-High-Definition Free-viewing Technology for Viewing Ancient Documents”, (共著/T.Suzuki, A.Nito) PNC 2002 Annual Conference and Joint Meetings, Proceedings, (CD-ROM) (Sep. 2002)
12. 『博物館情報横断検索その役割と課題』, (共著/小町祐史, 他) 画像電子学会第10回VMA研究会予稿集, 4 (Jan. 2003).
13. 『博物館情報横断検索のための記述構造相互変換のプロトタイプと評価』, (共著/山田篤, 他) 画像電子学会第10回VMA研究会予稿集, 5 (Jan. 2003).
14. “Possibility of Applying Information Technology to Historical and Cultural Research”, Proceedings of the 6th REKIHAKU International Symposium, pp.11-15 (Feb. 2003).
15. 『博物館と画像コンテンツ』, 映像情報メディア学会技術報告, vol.27, No.21, pp.59-62 (Mar. 2003).
16. 『超2次元数による土器の検索システム』, (共著/山口宗彦, 徳永幸生) 情報処理学会第65回全国大会講演論文集, 1G-4, pp.2-45-46 (Mar. 2003).
17. 『歴史資料自在閲覧システムの検索画像表示への適用の検討』, (共著/鈴木卓治, 宮田公佳) 画像電子学会第31回年次大会予稿集, pp.29-30 (Jun. 2003).
18. 『博物館情報横断検索のための記述内容レベルの相互変換』, (共著/山田篤, 小町祐史) 画像電子学会第31回年次大会予稿集, pp.27-28 (Jun. 2003).
19. 『コレクション資料閲覧への歴史資料自在閲覧方式の適用』, (共著/鈴木卓治, 宮田公佳) アジアデジタルアート・デザイン学会第1回研究発表大会概要集, pp.88-89 (Sep. 2003).
20. “An Application of a Super-High-Definition Free Viewing System for Viewing Historical Collections”, (共著/T.Suzuki, K.Miyata) Proceedings of the 1st Annual Conference of Asia Digital Art and Design Association. (2003).

- 
21. 『歴史資料自在閲覧システムによる大規模資料群の画像閲覧方法の検討』, (共著/鈴木卓治) 情報処理学会シンポジウム論文集, vol.2003, No.21, pp.143-146 (Dec. 2003).
  22. “An Approach to Integrated Access for a Variety of Museum Information”, (共著/A.Yamada, Y. Komachi, R.Atarashi) Proceedings of 2004 Symposium on Applications and the Internet, pp.268-271 (Jan. 2004).
  23. 『DSPを用いた静止画検索方式におけるインデックス画像の自動生成とその適用に関する研究』, (共著/葛螢, 王昕磊, 鈴木華代, 石丸勝洋, 江上俊一郎) 画像電子学会第 207 回研究会講演予稿, 03-06-01, pp.1-8 (Feb. 2004).
  24. 『博物館における画像閲覧システムの利用状況分析法』, (共著/上島史行, 新原雄介, 徳永幸生, 鈴木卓治) 情報処理学会第 66 回全国大会講演論文集, 3A-3, pp.4-31-32 (Mar. 2004).
  25. 『博物館画像閲覧システムの利用記録の分析による評価』, (共著/上島史行, 鈴木卓治, 徳永幸生) 画像電子学会第 32 回年次大会予稿集, pp.29-30 (Jun. 2004).
  26. 『博物館情報の分類マッピングを用いた横断検索』, (共著/山田篤, 小町祐史, 河合正樹) 画像電子学会第 32 回年次大会予稿集, pp.97-100 (Jun. 2004).
  27. “Index Image Generation Using DSP in High-Definition Still Image Retrieval”, (共著/Kayo Suzuki, Katsuhiko Ishimaru, Hiroaki Ikeda) MWSCAS2004 (The 2004 47th Midwest Symposium on Circuits and Systems (IEEE Circuits and Systems Society)), pp.III-503-506 (Jul. 2004).
  28. 『超精細画像による資料の比較閲覧機能の検討』, (共著/鈴木卓治) 情報処理学会研究報告, vol.2004, No.110, 2004-CH-64, pp.9-16 (Nov. 2004).
  29. 『展示の意図と来館者の理解—定量的評価の試み—』, 歴博共同研究・総研大学長プロジェクト合同公開研究会予稿集, pp.33-40 (Dec. 2004).
  30. 『インターネットによる電子展示とその評価』, 歴博共同研究・総研大学長プロジェクト合同公開研究会予稿集, pp.41-48 (Dec. 2004).
  31. 『大規模資料群画像の提示方法の利用記録による検討』, (共著/上島史行, 鈴木卓治, 徳永幸生) 情報処理学会シンポジウム論文集, vol.2004, No.17, pp.115-122 (Dec. 2004).
  32. 『Dublin Core メタデータと Z39.50 にもとづく人文科学系データベースの統合検索に関する実証実験』, (共著/山本泰則, 原正一郎, 柴山守, 合庭惇, 安永尚志) 情報処理学会シンポジウム論文集, vol.2004, No.17, pp.199-205 (Dec. 2004).
  33. 『人文科学系情報資源共有化と博物館資料情報の Dublin Core へのマッピング』, (共著/鈴木卓治) 画像電子学会第 3 回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.1-8 (Mar. 2005).
  34. 『博物館情報の横断検索におけるオントロジ利用の試み』, (共著/山田篤, 小町裕史, 河合正樹) 画像電子学会第 3 回画像ミュージアム研究会予稿集, 4 (Mar. 2005).
  35. 『博物館画像閲覧システムにおける資料探索時のインターフェースの検討』, (共著/上島史行, 鈴木卓治, 徳永幸生) 画像電子学会第 33 回年次大会予稿集, pp.201-202 (Jun. 2005).
  36. 『博物館分散オントロジの取込と対応付け』, (共著/山田篤, 小町祐史, 河合正樹) 画像電子学会第 33 回年次大会予稿集, pp.201-202 (Jun. 2005).
  37. 『資源共有化のための歴史資料データベースの Dublin Core へのマッピングの検討』, (共著/鈴木卓治, 小島道裕, 高橋一樹) 情報処理学会研究報告, vol.2005, No.76, 2005-CH-67, pp.39-46 (Jul. 2005).
  38. 『博物館資料情報の共有化のための共通メタデータへのマッピング』, 画像電子学会第 4 回画像ミュージアム研究会予稿集, 2 (Mar. 2006).
  39. 『博物館情報横断検索における分散オントロジの検討』, (共著/山田篤, 小町裕史, 河合正樹) 画像電子学会第 4 回画像ミュージアム研究会予稿集, 3 (Mar. 2006).
  40. 『博物館資料探索における画像閲覧インターフェースの検討』, (共著/上島史行, 徳永幸生, 鈴木卓治) 情報処理学会第 68 回全国大会講演論文集, 6S-2, pp.4-125-126 (Mar. 2006).
  41. 『超 2 次元パラメータによる土器画像検索』, (共著/茂呂優太, 鈴木卓治, 徳永幸生) 情報処理学会第 68 回全国大会講演論文集, 1P-7, pp.3-171-172 (Mar. 2006).
-

- 
42. 『小袖資料の超精細画像閲覧システムへの適用』, 文部科学省オープンリサーチセンター整備事業 ORCNANA シンポジウム, 日本大学芸術学部 (3 Apl. 2006).
  43. 『歴史展示との関わり方に関する評価方法の検討—国立歴史民俗博物館の展示を活用した定量的評価—』, (共著/松岡葉月) 情報処理学会研究報告, vol.2006, No.57, 2006-CH-70, pp.45-52 (May. 2006).
  44. 『超2次関数を用いた土器画像検索システムの入力方法』, (共著/茂呂優太, 徳永幸生) 画像電子学会第34回年次大会予稿集, pp.49-50 (Jun. 2006).
  45. 『人文科学情報共有化のための博物館資料情報のマッピングの検討』, 画像電子学会第34回年次大会予稿集, pp.179-186 (Jun. 2006).
  46. 『博物館情報検索のためのオントロジ・ユースケースの検討』, (共著/山田篤, 小町祐史, 河合正樹) 画像電子学会第34回年次大会予稿集, pp.187-190 (Jun. 2006).
  47. 『歴史研究データベースの Dublin Core へのマッピングとその課題』, (共著/鈴木卓治) 情報処理学会研究報告, vol.2006, No.112, 2006-CH-72, pp.47-54 (Oct. 2006).
  48. 『インターネットによる電子展示の閲覧特性の検討』, (共著/小島道裕, 高橋一樹) 情報処理学会シンポジウム論文集, vol.2006, No.17, pp.371-378 (Dec. 2006).
  49. 『博物館横断検索に向けた概念辞書の枠組みの検討』, (共著/山田篤, 小町祐史, 河合正樹) 画像電子学会第5回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.19-22 (Mar. 2007).
  50. 『超高精細画像による博物館資料の閲覧箇所の分析』, (共著/早野浩章, 鈴木卓治, 徳永幸生) 画像電子学会第5回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.31-38 (Mar. 2007).
  51. 『画像閲覧システムによる博物館資料画像の閲覧箇所の評価法の検討』, (共著/早野浩章, 徳永幸生, 鈴木卓治) 情報処理学会第69回全国大会講演論文集, 4ZA-4, pp.4-406-407 (Mar. 2007).
  52. 『パラメータによる土器画像の分類とその検索システム』, (共著/茂呂優太, 徳永幸生) 情報処理学会第69回全国大会講演論文集, 5T-8, pp.1-629-630 (Mar. 2007).
  53. 『歴博のDB項目とDCメタデータマッピング課題の整理—』, 国文学研究資料館共同研究 (20 Nov. 2006).
  54. 『歴史研究データベースのDCメタデータへのマッピング』, 国文学研究資料館共同研究 (17 Jan. 2007).
  55. 『時間情報を持つ人文科学DBの統合検索のためのユーザインタフェースの検討課題』, (共著/原正一郎, 柴山 守) 情報処理学会研究報告, vol.2007, No.49, 2007-CH-74, pp.65-72 (May. 2007).
  56. 『文化資源の画像データベース—衣裳コレクションを中心として—』, 文部科学省オープンリサーチセンター整備事業 ORCNANA シンポジウム, 日本大学芸術学部 (3 Jun. 2007).
  57. 『画像閲覧システムによる博物館資料の閲覧箇所の分析』, (共著/早野浩章, 鈴木卓治, 徳永幸生) 画像電子学会第35回年次大会予稿集, pp.123-128 (Jun. 2007).
  58. 『博物館情報横断検索に向けた概念辞書構造の検討』, (共著/山田篤, 小町祐史, 河合正樹) 画像電子学会第35回年次大会予稿集, pp.133-138 (Jun. 2007).
  59. 『土器画像検索システムと展示への応用の検討』, (共著/茂呂優太, 徳永幸生, 杉山 精) 画像電子学会第6回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.11-16 (Feb. 2008).
  60. 『部分的分類知識の統合による博物館情報の横断検索の提案』, (共著/山田篤, 小町祐史) 画像電子学会第6回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.17-20 (Feb. 2008).
  61. 『歴史画像閲覧システムの解説表示に関する利用者特性の評価』, (共著/早野浩章, 徳永幸生, 鈴木卓治) 情報処理学会第70回全国大会講演論文集, 2JZ-2, pp.4-819-820 (Mar. 2008).
  62. 『超2次関数と首パラメータによる土器画像検索の評価』, (共著/茂呂優太, 徳永幸生, 杉山 精) 情報処理学会第70回全国大会講演論文集, 1R-2, pp.1-471-472 (Mar. 2008).
  63. 『文化資源研究情報統合検索のためのユーザインタフェース』, 人間文化研究機構研究資源共有化シンポジウム予稿集, pp.19-26 (Mar. 2008).
  64. 『人間文化研究機構研究資源共有化事業—5 機関 106DB のメタデータと統合検索の実現—』, 地域・環境情報ネットワークワークショップ, 総合地球環境学研究所 (9 May. 2008).
  65. 『人文科学研究データベースの統合検索システムの構築』, (共著/山本泰則, 関野樹, 原正一郎, 柴山守,
-

- 安永尚志) 画像電子学会第 36 回年次大会予稿集, R.2-1 (CD-ROM) (Jun. 2008).
66. 『分類集合間の類似度を用いた博物館情報横断検索』, (共著/山田篤, 小町祐史) 画像電子学会第 36 回年次大会予稿集, T.1-3 (CD-ROM) (Jun. 2008).
67. 『歴史画像閲覧システムにおける解説表示法の検討』, (共著/早野浩章, 鈴木卓治, 徳永幸生, 杉山 精) 第 7 回情報科学技術フォーラム (FIT2008), J-012, pp.429-430 (第 3 分冊) (Sep. 2008).
68. 『歴史資料の超高精細画像による提示方式の検討—自由操作とシナリオナビゲーションの統合—』, (共著/鈴木卓治) 画像電子学会第 7 回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.1-6 (Mar. 2009).
69. 『博物館資料群中の語の共起関係を用いた関連語抽出』, (共著/山田篤, 小町祐史) 画像電子学会第 7 回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.7-10 (Mar. 2009).
70. 『歴史画像閲覧システムにおける解説表示領域の設定法の検討』, (共著/早野浩章, 鈴木卓治, 徳永幸生, 杉山 精) 情報処理学会第 71 回全国大会講演論文集, 2F-5, pp.4-21-22 (Mar. 2009).
71. 『歴史資料における解説表示設定のための領域抽出法の検討』, (共著/西郷智気, 徳永幸生, 杉山 精) 情報処理学会第 71 回全国大会講演論文集, 1Y-5, pp.4-151-152 (Mar. 2009).
72. 『資源共有化事業・統合検索システムについて』, 第 1 回人間文化に関わる情報資源共有化研究会, 人間文化研究機構 (15 Dec. 2008).
73. 『文化資源情報の研究機関連携の課題』, 研究・教育のためのデータ連携ワークショップ第 1 回, 国立情報学研究所 (22 Apr. 2009).
74. 『統合検索システム概要と今後の展開』, 第 1 回人間文化研究情報資源共有化研究会, 人間文化研究機構 (29 May. 2009).
75. 『博物館資料群中の語の共起関係を用いた関連語抽出における主要語選定の効果』, (共著/山田篤, 小町祐史) 画像電子学会第 38 回年次大会予稿集, T1-1 (CD-ROM) (Jun. 2009).
76. 『博物館資料情報統合検索のためのコアメタデータ』, (共著/山本泰則) 情報処理学会シンポジウム論文集, vol.2009, No.16, pp.287-294 (Dec. 2009).
77. 『歴史データベースの検索インタフェース設計のための利用度推定法の検討』, (共著/小野田賢人, 徳永幸夫, 杉山精) 画像電子学会第 8 回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.1-8 (Mar. 2010).
78. 『関連語による博物館情報探索における到達容易性の評価』, (共著/山田篤, 小町祐史) 画像電子学会第 8 回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.9-12 (Mar. 2010).
79. 『歴史資料画像におけるオブジェクト群の集合化手法の検討』, (共著/西郷智気, 徳永幸生, 杉山 精) 情報処理学会第 72 回全国大会講演論文集, 6ZF-7, pp.4-185-186 (Mar. 2010).
80. 『歴史資料画像の任意の対応点に基づく比較表示手法の検討』, (共著/川北明広, 徳永幸生, 杉山 精) 情報処理学会第 72 回全国大会講演論文集, 3ZM-7, pp.4-863-864 (Mar. 2010).
81. 『文化資源情報統合検索のための交換メタデータ』, 画像電子学会第 38 回年次大会予稿集, T1-3 (CD-ROM) (Jun. 2010).
82. 『博物館情報探索における関連語の順位を考慮した到達容易性の評価』, (共著/山田篤, 小町祐史) 画像電子学会第 38 回年次大会予稿集, T1-4 (CD-ROM) (Jun. 2010).
83. 『歴史資料画像の比較表示における対応点数と誤差の評価』, (共著/川北明広, 徳永幸生, 杉山 精) 第 9 回情報科学技術フォーラム講演論文集, N-011, pp.471-472 (第 4 分冊) (Sep. 2010).
84. 『歴史データベース検索のユーザインタフェースを考慮した利用度推定』, (共著/小野田賢人, 徳永幸生, 杉山 精) 第 9 回情報科学技術フォーラム講演論文集, N-012, pp.473-474 (第 4 分冊) (Sep. 2010).
85. 『歴史 DB の検索インタフェース設計に向けた検索語の分析』, (共著/小野田賢人, 徳永幸夫, 杉山精) 画像電子学会第 9 回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.1-8 (Mar. 2011).
86. 『博物館情報探索における到達容易性向上のための資料群分割の効果』, (共著/山田篤, 小町祐史) 画像電子学会第 9 回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.9-14 (Mar. 2011).
87. 『絵巻資料画像の任意の対応点に基づく比較表示手法の検討』, (共著/川北明広, 徳永幸生, 杉山 精) 情報処理学会第 73 回全国大会講演論文集, pp.4-631-632 (Mar. 2011).
88. 『博物館情報探索における資料群分割の到達容易性による評価』, (共著/山田篤, 小町祐史) 画像電子

- 
- 学会第31回年次大会予稿集, T1-1 (CD-ROM) (Jun. 2011).
89. 『歴史資料画像の任意の対応点に基づく比較表示手法の検討』, (共著/川北明, 徳永幸夫, 杉山精) 画像電子学会第39回年次大会予稿集, T1-3 (CD-ROM) (Jun. 2011).
90. 『局所的に入れ替わりがある絵画資料画像の任意の対応点に基づく比較表示方法の検討』, (共著/川北明, 徳永幸生, 杉山精) 第10回情報科学技術フォーラム講演論文集, pp.409-410(第4分冊) (Sep. 2011).
91. 『歴史文化資源情報の保全—システム工学的見方から—』, 人間文化研究情報資源共有化研究会(第6回)報告集3, pp.39-44 (Dec. 2011).
92. 『歴史データベースにおける検索インターフェース設計のためのガイドライン作成』, (共著/小野田賢人, 徳永幸夫, 杉山精) 画像電子学会第10回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.1-5 (Mar. 2012).
93. 『博物館関連語検索のための木構造を反映した資料群の構成法』, (共著/山田篤, 小町裕史) 画像電子学会第10回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.6-11 (Mar. 2012).
94. 『時間と場所の情報を有する大量の写真画像の提示方法の検討』, (共著/田中紀之, 徳永幸夫, 杉山精) 画像電子学会第10回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.18-24 (Mar. 2012).
95. 『歴史資料画像の任意の対応点に基づく比較表示と対応点設定手法の検討』, (共著/川北明, 徳永幸夫, 杉山精) 画像電子学会第10回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.25-30 (Mar. 2012).
96. 『正倉院文書における画像処理を用いた切り分け位置の検出手法の検討』, (共著/脇正宏, 徳永幸夫, 杉山精) 画像電子学会第10回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.51-55 (Mar. 2012).
97. 『大型絵画資料の比較表示と解説表示』, (共著/鈴木卓治, 徳永幸生) 画像電子学会第40回年次大会予稿集, T1-1 (CD-ROM) (Jun. 2012).
98. 『博物館関連語検索のための資料群構成法の評価』, (共著/山田篤, 小町祐史) 画像電子学会第40回年次大会予稿集, T1-3 (CD-ROM) (Jun. 2012).
99. 『nihuINTにおける人文科学研究資源の探索支援』, (共著/山田太造, 古瀬 蔵) 情報処理学会研究報告, vol.2012, No.9, 2012-CH-96-9, pp.1-8 (2012).
100. 『人文科学データベース統合検索のためのメタデータとその応用』, (共著/山田太造, 山本泰則, 古瀬蔵) 情報処理学会シンポジウムシリーズ, vol.2012, No.7, pp.71-78 (Nov. 2012).
101. 『複数のジャンルを対象とした博物館関連語検索』, (共著/山田篤, 小町裕史) 画像電子学会第11回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.1-8 (Mar. 2013).
102. 『時間と場所の情報で配置した大量の写真画像提示における利用特性の分析』, (共著/田中紀之, 徳永幸夫, 杉山精) 画像電子学会第11回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.9-16 (Mar. 2013).
103. 『色相情報に基づく正倉院文書の切り分け位置の検討』, (共著/脇正宏, 徳永幸夫, 米村俊一) 情報処理学会第75回全国大会講演論文集, 6U-2, pp.2-621-622 (Mar. 2013).
104. 『正倉院文書の表裏比較表示における対応点の設定方法の検討』, (共著/平野清典, 徳永幸夫, 米村俊一) 情報処理学会第75回全国大会講演論文集, 5ZF-4, pp.4-835-836 (Mar. 2013).
105. 『正倉院文書の表裏比較表示における対応点の最適配置の検討』, (共著/平野清典, 徳永幸夫, 米村俊一) 画像電子学会第41回年次大会予稿集, S4-3 (CD-ROM) (Jun. 2013).
106. 『正倉院文書の並び替えのための断簡と台紙の領域分離方法』, (共著/脇正宏, 米村俊一, 徳永幸夫) 画像電子学会第41回年次大会予稿集, T3-1 (CD-ROM) (Jun. 2013).
107. 『自由操作とシナリオナビゲーションを統合した展示用閲覧システムのログ分析による評価』, (共著/鈴木卓治, 徳永幸夫) 画像電子学会第41回年次大会予稿集, T3-2 (CD-ROM) (Jun. 2013).
108. 『博物館収蔵品の発見的検索手法の提案』, (共著/山田篤, 小町祐史) 画像電子学会第41回年次大会予稿集, T3-3 (CD-ROM) (Jun. 2013).
109. 『高精細画像を用いた正倉院文書の調査研究支援自在閲覧システム』, (共著/鈴木卓治, 仁藤敦史, 平野清典, 米村俊一, 徳永幸生) 情報処理学会シンポジウムシリーズ, vol.2013, No.4, pp.217-224 (Dec. 2013).
110. 『正倉院文書の料紙と繋紙の切り分けと並べ替え』, (共著/脇正宏, 米村俊一, 徳永幸夫) 画像電子学会第12回画像ミュージアム研究会予稿集, pp.1-6 (Feb. 2014).
111. 『博物館資料名称の関連度を用いた分野横断検索』, (共著/山田篤, 小町裕史) 画像電子学会第12回画
-

---

像ミュージアム研究会予稿集, pp.29-34 (Feb. 2014).

- 112.『大量の歴史資料画像の提示法』, (共著／鈴木卓治) 平成 26 年電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集, OS12-7, pp.1178-1183 (Sep. 2014).

### Ⅲ 展示図録

- 1.『デジタル技術による歴史展示と研究』, 国立歴史民俗博物館特別企画「歴史を探るサイエンス」展示図録, pp.56-57 (Oct. 2003).
- 2.『デジタルで探る』, (共著／鈴木卓治) 国立歴史民俗博物館特別企画「歴史を探るサイエンス」展示図録, pp.58-61 (Oct. 2003).
- 3.『超精細デジタル資料による展示』, 国立歴史民俗博物館企画展示「ドキュメント災害史 1703-2003」展示図録, pp.20-22 (Jul. 2003).
- 4.『デジタル資料「絵画に見る出雲大社周辺の 700 年」』の制作, 国立歴史民俗博物館企画展示「日本の神々と祭り—神社とは何か?—」展示図録, pp.56-57 (Mar. 2006).
- 5.『正倉院文書の裏表の対応表示』, 国立歴史民俗博物館国際企画展示「文字がつなぐ—古代の日本列島と朝鮮半島—」展示図録, p.142 (Oct. 2014).